

第 26 回参議院議員選挙結果を踏まえての J R 連合コメント

2022年7月11日
日本鉄道労働組合連合会（JR連合）

7月10日に投開票が行われた第26回参議院議員選挙において、推薦候補の必勝に向けてご支援、ご尽力をいただいた組合員や家族の皆さまをはじめ、すべての関係者に心から敬意を表し、御礼を申し上げます。

今参議院議員選挙は、長期化するコロナ禍が依然として猛威をふるい、ロシアによるウクライナ侵攻によって世界が更なる混乱に陥る中で行われた。国民生活や経済・社会活動の混乱と悪影響を早期に収束させる強い政治のリーダーシップと、機動的な政策立案と実行、さらには将来を見据えた先見性のある政策の展開が強く求められ、また、働く者・生活者が真に求める政策を実現する政治家を国政の場に送る必要性がかつてなく高まっているという情勢下での選挙であった。同時に、その結果が今後の国会運営や政局のほか、苦境に陥っている J R 産業の将来に大きな影響を及ぼし得る、重要な国政選挙であった。

結果として、今選挙は過去4番目に低い52.05%という低水準の投票率のもとでの審判となった。与党では自民党の獲得議席数が単独で改選過半数に達し、自民・公明の両党で76議席（改選前69議席）となった。立憲民主党は議席を減らし17議席（改選前23議席）となり、国民民主党は5議席の獲得（改選前7議席）にとどまった。一方で日本維新の会は、今選挙においても議席を増やし12議席を獲得した（改選前6議席）。改憲に前向きな4党では、憲法改正発議に必要な82議席を上回る93議席となった。

J R 連合は連合方針を踏まえ、政局や諸情勢に左右されることなく、非自民・反共産の理念および‘政策本位、人物本位’の政治方針を堅持し、選挙区では「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」に所属し改選期を迎える6名と、全国比例区では連合組織内候補4名を重点候補者として推薦した。加盟組織とともに全員当選に向けた取り組みを広く展開し、組織と運動の強化にも繋げてきた。重点候補者について、選挙区では伊藤孝恵氏（愛知県）、福山哲郎氏（京都府）、古賀之士氏（福岡県）、蓮舫氏（東京都）、小西洋之氏（千葉県）の5名が当選を果たしたが、足立信也氏（大分県）が惜敗。全国比例区では竹詰仁氏（電力総連）、川合孝典氏（U A ゼンセン）、柴愼一氏（J P 労組）の3名が当選を果たしたが、矢田わか子氏（電機連合）が惜敗する結果となった。また、同日程で行われた滋賀県知事選では、J R 連合出身の三日月大造知事が三期目の当選を果たした。今後は当選者が、その実力を縦横無尽に発揮されることを期待したい。

一方、「政権交代可能な二大政党的体制」の実現は依然として見通しが立たず、重たい課題として私たちに突きつけられている。野党乱立の経緯や国民の政治不信等の現実を厳粛に受け止め、働く者・生活者の声を代弁する勢力の結集をはかるべく、一丸となって出直しを図る必要がある。

J R 産業は、社会構造の変化とコロナ禍により、産業としての大転換期を迎えている。J R 産業の回復と発展に向けては、労使の自助努力に加え、企業内労使では解決できない様々な課題への対応が必要不可欠である。J R 連合は、今選挙結果を厳粛に受け止め、引き続き政策課題や組織課題の前進に向け、J R 連合国会議員懇談会および「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」等との連携を一層強化し、来年予定されている統一地方選挙をはじめ、各種選挙における取り組みを深度化させていく。あわせて、労働組合の役割を今一度自覚し、J R 連合構成組織の更なる強化に向け全力をあげることにする。

以上